

# “鮮度一番！”

No.192

～女性と男性が支え合う社会をつくる～

CONTENTS

- 1 / ひとつコラム
- 2～4 / 運営委員会で話されたこと
- 5～6 / 新潟県立大学石川伊織教授の講演内容
- 6 / 編集後記

・・・ひとつコラム・・・

人生初のダイエット

阿部正剛

四十も後半になって太ってきた。いわゆる「中年太り」ということなんだろうがショックだ。20代からウエストサイズが変わらず、学生のとき買ったスーツもときどき着ていたのだが、ある日スーツの下を履こうと思ったらファスナーが締まらない。暫く何が起こったのか分からなくてパンツが縮んだのかと思ったが、そうじゃなくて自分が太ったことに気づくのに時間がかかった。

今まで「やせすぎ」で裸になるとあばら骨が見え「気持ち悪い」と言われたくらいで、一生肥満とは縁がないと思っていたのだがとうとう自分の順番が回ってきたみたいだ。そういえば最近夕食にご飯をおかわりするようになった。いままで茶碗の半分も食べるとお腹がいっぱいになり、コンビニで弁当を買っても半分以上残して「もったいないな」と思っていたのだが不思議とお腹がすく。

学生時代は一人暮らしで食事を作るのが面倒で、とにかくお腹がすいたら「動かず寝る」ようにしていたら、いつの間にかそれが当たり前になり空腹も苦にならなかったし、友達が彼処のラーメンが美味しいとか此処の焼き肉が旨いとかそんな話しをしていても「のど元過ぎれば一緒じゃん」くらいしか思っていなくて、食べ物にまったく興味がなくお腹がいっぱいになればいいとしか思っていなかった。よく女性が「痩せたい、痩せたい」と言いながらスイーツを食べているのを見る度に「食べなきゃいいのに」と思っていて、女性の気持ちがまったく分からなかったが今は違う。「食べなきゃいいのに」と分かっている、我慢ができず夜食にポテチやカップ麺を食べる。甘いもの大好きで「とらやの羊羹」にハマっている。お腹がすいても眠れたはずが今は眠れない。そういえば、車椅子での移動や車椅子から車や脱衣場へ移乗の時など体が重い。ユニクロで買った一番大きいサイズのパンツがきつい……。そういえば誰かが言っていた「金のない太った障がい者が一番嫌われる」(介護が大変)

これではまずいと一念発起して人生初のダイエットをしている。糖質制限や食べる順番を工夫して少しずつやせてきたが、まだ学生時代に着ていたスーツを着られるようにはなっていない。



# 運営委員会で話し合われたこと

日 時 平成27年4月15日(木) (AM9:30~11:30)

場 所 男女共同参画センター(桜木町)

今月は、「三条ものづくり学校」と「地域交流施設」とが一体となった旧南小跡の男女共同参画センターで、運営委員会を開きました。この日、偶然他の活動をしている知り合いと顔を合わせましたが、これから、この場所を訪れることで交流が図れる利点を感じつつ、男女共同参画センターが、相変わらず鍵のかかったままの部屋であることをご報告します(涙・涙)

次回は、5月13日(水)9:30~男女共同参画センターです。どなたでもおいでください。

## 1. 第2次三条市男女共同参画推進プラン(案)のパブコメの回答について

推進プラン(案)へは、当会と会員個人とで15のパブリックコメントを提出しましたが、いずれも「原案のとおりとします」等の回答でした。三条市のホームページで公開されていますのでご覧ください。

でもこれだけはと会員のコメントです。

「子育てに関することで推進プラン(案)では、現実に行っていることのみが書かれている。将来を見据えて、これからやらなければならないこと、希望を持って子育てできるようなことを入れて欲しかった。」

推進プランが机上のプランとならないようみんなで見守りたいと思います。

## 2. 燕三条エフエム放送(ラヂオは〜と 76.8MHz)ワイワイ女性ひろば

- 本放送 毎週金曜日 11:00~11:30・・・放送時間が変わりました!
- 再放送 毎週水曜日 19:30~20:00

4月のテーマ「人口減少社会を生きる知恵」

- ①週目 人口減少社会を生きる知恵
- ②週目 三条市福祉政策の概要
- ③週目 福祉制度利用の知恵
- ④週目 ボランティアに親しむ
- ⑤週目 生涯現役 美婆の出番

メンバー：三条市福祉保健部福祉課課長 近藤晴美さん  
三条市ボランティア連絡協議会副会長 捧 典さん  
音声訳つわぶき会会長 岩崎扶佐さん  
田辺とも子

少子高齢化や人口減少に関する話題に事欠かない昨今。多年にわたりボランティア活動をされてきたお二人と、三条市福祉課の近藤さんをお迎えし“今”と“これから”を生き抜くための方策について話がすすみました。

「もっともっと男性のボランティア人口を増やしたい」「美婆とは、美しいお婆さんという意味だけでなく、イタリア語のピバ（万歳）。美爺は、ビジーと読み英語の忙しい」。後期高齢者になったからといって、“年だから”を言い訳にしたくない、社会との接点があるからこそ自身の健康も保てる等々、元気の出るお話満載です。三条市「シルバー元気プロジェクト」のお話も注目です。三条市は平均寿命と健康寿命の差がものすごく小さいそうです。老後不安を少なからず持っていた私ですが、光が見えた気がしました。どうぞお聴きください。

4月5週目として収録した分は、5月1週目に放送されますのでよろしくお願い致します。なお5月は「市島教授のコミュニケーション講座」です。お楽しみに。（田辺）

### 3.

#### 各種審議会等について

##### 平成 26 年度第 5 回三条市男女共同参画審議会

丸山静江

3月16日 午後2時～2時50分 開催されました。

議題は (1)平成26年度男女共同参画推進プラン実施状況について  
(2)第2次男女共同参画推進プランの答申について  
(3)その他

参加者が少ないということで中止するなら、代替の講座を考えて欲しい。「指導・助言した」で止まらず「指導助言し」それでどうなったのかという結果に評価したい。「～が必要」という課題を踏まえて、次に何をすべきかという提案をしていただきたいと要望しました。

(2)推進プランの答申について、渡邊会長から市民部長に答申  
(3)その他 特に議題なく終了。

三条市男女共同参画推進プランの改訂版が出来ただけで終了では無く、いかにして読んで頂くか課題が多いと思いました。5歳の孫が「ママが今日ごはん作れないから、おばあちゃん作って」と言いました。幼児にも女が食事の支度をするものだと思われています。

##### 三条市介護保険運営協議会 第3回地域包括支援センター運営部会報告

安室 久恵

第3回地域包括支援センター運営部会が3月17日（火）、市役所4階第1委員会室で開かれた。

議題

(1)介護予防給付ケアマネジメント業務の委託について  
(2)平成26年度地域包括支援センターの評価について  
(3)平成27年度地域包括支援センターの事業計画・収支予算（案）

(2)各包括支援センターの事業内容の評価については、内部評価したものを市担当課で問題点をチェックしているとのことである。

(3)について、5地域包括支援センターごとの事業計画と収支予算案の提示があり、それに対し、支出の内訳を各支援センターで統一されていないとの委員からの指摘があり、今後検討していくとの事務局の応答であった。

## 第2回三条市介護保険運営協議会報告

安室 久恵

第2回三条市介護保険運営協議会が3月24日(火)、市役所第2庁舎で開かれた。

### 議題

- (1) 高齢者福祉計画・第6期介護保険事業計画(案)に対するパブリックコメントと市の考え方
  - (2) 高齢者福祉計画・第6期介護保険事業計画について
  - (3) 介護保険運営協議会の委員および部会の見直しについて
- 
- (1) 高齢者福祉計画・第6期介護保険事業計画(案)に対して寄せられた13件のパブリックコメントについて市の考え方の説明があった。
  - (2) 高齢者福祉計画・第6期介護保険事業計画については最終案が説明され、概要版は各家庭に配布される。27年度から29年度の介護保険料も決定された。
  - (3) 介護保険運営協議会は次の任期(6月)から委員数を26人から17人に減らし、計画運営部会を廃止、地域包括支援センター運営部会と地域密着型サービス運営部会の2部会とする。

## 4. 総会について

第20回三条女性会議総会が、下記のように決まりました。お忙しいと思いますが、肩のこらない楽しい総会ですので、お口の体操をかねてご出席くださいますようお願い致します。

- ◆日 時：**6月7日**(日曜日)  
午後4時～総会  
5時～記念講演会(総会終わり次第始めます)  
6時～懇親会(まるいさんお弁当+お酒)
- ◆場 所：シェアスペース&ライブラリー 燕三条トライク  
(三条市神明町3-7 神明宮隣り  
美容室グレイス前に専用駐車場5台あり)
- ◆記念講演講師：小山雅由さん(燕三条トライク代表)  
演題「トライクから新しい価値を創り出す」

## 5. その他

5月17日(日)13:30~16:30 女のスペース・ながおか設立15周年記念として、ドキュメンタリー映画「何を怖れる～フェミニズムを生きた女たち～」終了後上野千鶴子さん講演会「リブからの40年、日本の女は変わったか？」が開かれます。会場は、中央図書館2階講堂(長岡市学校町1-2-2)入場券1,000円です。事前の申込みが必要ですので、お問合せ・お申込みは、女のスペース・ながおか(TEL&FAX:0258-38-0457)まで。

4月13日燕三条青年会議所の開いた研修会の内容が、「これは女性の問題ではない。石川教授、社会の自覚求める」と目を引きましたので、越後ジャーナル様の許可を得て掲載します。

## テーマ「輝く女性の生き方を学ぶ」

新潟県立大学教授 石川伊織

### ・ワークライフバランスについて

どうも、これは女性の問題だと思われているが違う。そうではない。政府が掲げたワークライフバランス憲章を見てみると「企業や雇用主に対策を考えろ」という内容になっている。困っている人に「あなたはこうなさい」という内容は一つも含まれていない。国や地方公共団体、職場や労働組合が一生懸命に考えるべきものであって、個人に「こうなさい」というものではない。つまり、これは女性ではなく女性の労働環境の問題だ。

### ・男女共同参画とは

1999年に、男女共同参画基本法が制定された。その2年後に国連本部で特別総会が開かれ、日本政府も代表を派遣し、国内の取り組みを説明した。もちろん、この基本法も英訳される。すると「Fundamental Law of Gender Equality」。もう一度、中学生レベルで和訳すると「男女平等基本法」と言えるものだ。つまり、男女共同参画とは両性の差別をなくして平等に扱いましょう、ということ。そのように理解すると分かりやすい。

しかし、いじわるな言い方をする人には「体が違う」そして「区別と差別は違う」と反論する人がいる。しかし、残念ながら生物学的な違いをジェンダーとは言わない。ここでいう平等とは、生物学的な違いを認めた上で、差を設けない、社会的な取扱に性差の区別をつけないということだ。

この基本法より早く、国連は女性差別撤廃条約を制定した。この基本法は、これを国内向けにしたものだと思っている。その条約の一部第一章に性差別について書いてあります。政治的にも経済的にも社会的、文化的、市民的、そのほかいかなる分野においてもその対象となる。つまり、区別も差別だということだ。

そこで問題になるのは、人権や自由というのは、それを使う人間が知っていなければ行使できないということだ。その権利を持っていると、伝えていかなければ始まらない。それをしなければ人権の侵害になる。認識し、共有し、行使することが権利の基本的な要件となるからだ。

たとえとして適当かどうか分からないが、たとえば殺人事件がある。これは殺す意思があって、その行為があって、そして死ななければ成立しない。意思がなければ過失致死だ。犯罪とは、その意図があり、実現する行為があって、結果が起こって成り立つものだ。つまり、法の侵略、意図的に法律を破ってはじめて犯罪となる。その意図があるかないかで区別しなければならないものだ。セクハラがある、これは加害者が意図してやっていない場合が多い。はじめから意識していなければどうにもならない。私たちは意識しないで生きているが、実は、特定の性別では生きにくい社会になってしまっている。

### ・なぜ、両性の平等が必要なのか

かつては人権より経済が重視された時代があった。しかし、今は、その価値が逆転している。人権問題が解決しなければ、経済が維持できない時代になっている。たとえば子どもを産まない方が会社で地位が上がるとしたらどうだろう。みなさんは子どもを産もうと考えるだろうか。今の少子化はそうして起こった。子どもを産み育てることが生活や仕事、社会でマイナスになる要素である限り、次の世代を担う子どもが増えることはない。だからといって、子どもを産めと強制するのは、それこそ人権侵害となってしまう。だから、人口問題の解決なしには経済活動を支える人材を増やすことはありえない。

ワークライフバランス憲章に付随した内閣府の資料には、さまざまな興味深いデータがある。今、年々、正規雇用が減っている。非正規雇用の割合は、1982年からどんどん増えている。どの年代もそうだ。そして、今から10年後にどのような就業形態で働きたいか、というアンケートがある。男性は多くが正規雇用を求めている。これはパートやアルバイトを脱しようとしてうまくいかない状況を示している。女性は正規雇用を求める割合は高くない。しかし、それは正社員になりたいか、なりたくないのか、の選択ではない。正社員として子どもを育てていけるかどうかの問題だ。

一方でライフスタイルは変化している。子どもができたからといって仕事を辞める人は減っている。これには理由がある。実はサラリーマンの生涯賃金は2億円。結婚退職や出産退職で女性の生涯賃金は6,000万円ほどになってしまう。やく1億4千万円減る計算だ。これはどういうことか。夫婦共稼ぎの世帯が増えている。どちらかが仕事を辞めると4億円が2億6千万円になってしまう、一人の子どもを育てるのにかかる費用が2千万円。実は共稼ぎでなければ子どもは産めない。

母親が家庭にいないと子どもは育てられないと言う人がいるが、実は母親が働かないと子どもは育てられない。本来は国の労働政策だ。日本はかつてヨーロッパ型「大きな政府」を目指してきたが、近年はアメリカ型の「小さな政府」に転換している。

### ・ワークとライフの位置関係

ワークはライフの一部分じゃない。仕事は生きがいではない。このワークライフバランスの発想はキリスト教的な考え方によるものだ。働かない人間が正しい人間であるという価値観に基づくもので、これがはたして日本で受け入れられるものかどうか。私もすごく気になっている。はたして小さな政府でできるものなのか、今の方向性は、あまりにも人々の善意に寄りかかりすぎてはいやしないか。

何度も言うが、この問題は女性の問題ではない。たとえば、女性が会社で意見を言っても「わがままを言うな」だ。

結局、従業員が子どもを産むことが私的な利益ではなく、国家的な利益であるという自覚をみんなが持たないといけない。そうでなければ国の少子化はとまらず、経済はよくなるらない。目に見えている。(細山)

### 編集後記：

今までずーっと傘ばかりが並んでいた天気予報、それを挽回するかのように週間予報はずーっと晴れ晴れ晴れのマーク。ハウスの中の苗も大喜び。太陽の恵みに感謝です。5月ゴールデンウィークの田植えに向けて着々と準備が進みます。

この春から社会人をスタートさせ、希望に燃えている次男、初々しい限りです。一番に出かける一年生に先輩風の主人と長男は、出勤時間が少し早くなったような・・・！

今号も盛りだくさんの鮮度一番、読み応えのある内容です。どうぞ隅から隅までお読みください。(原)

編集発行：三条女性会議・代表 野崎ミチコ

連絡先：三条市田島2丁目12-12 Tel 32-3667 FAX 32-3679

ホームページアドレス：<http://www.joseikaigi.net>